

片頭痛予防のための抗CGRP抗体の使用：主な学習内容

片頭痛が患者にもたらす現実的な負担



「本研究は、片頭痛が患者にどのような影響を及ぼすかを如実に表す数値を提供します。たとえば、偏見、病気、認知障害、仕事への影響などがあります。」 - Sacco教授

講演者および話題



Simona Sacco教授は、IHC 2023の見解を含め、片頭痛予防のための抗CGRP抗体の使用に関する主要な知見を発表しました

片頭痛は、偏見、QoL、認知障害、仕事の障害を含むかなりの負担と関連している

CaMEO-I：

米国、カナダ、英国、ドイツ、フランス、日本で実施された横断コホート研究¹⁻³



N=14,492¹⁻
5.4~9.5%が
15MHD以上¹

81.1%
が1回
以上の認知
障害を経験²



4.3~9.0%
が欠勤（常習的
欠勤）³



33.5~49.4%
が仕事の障害を
経験（病気でも
出勤）³



31.5%：片頭痛の痛みや影響が理解されていないとしばしば*感じる¹



17.5%：片頭痛は患者のせいだと思われるとしばしば*感じる¹

*頻繁に、または非常に頻繁に起こる。CaMEO-I, 慢性片頭痛疫学と転帰—国際；CGRP, カルシトニン遺伝子関連ペプチド；IHC, 国際頭痛学会；MHD, 月間頭痛日数；QoL, 生活の質。

1. Shapiro RE, et al. 発表：IHC2023, 韓国、ソウル。2023年9月14~17日。Abstr IHC23-DP-043；2. Lipton RB, et al. 発表：IHC2023, 韓国、ソウル。2023年9月14~17日。

Abstr IHC23-IND-002；3. Katsarava Z, et al. 発表：IHC2023, 韓国、ソウル。2023年9月14~17日。Abstr IHC23-IND-003。

片頭痛予防のための抗CGRP抗体の使用：主な学習内容



有効性と安全性の結果¹



スペイン、イタリア、ポルトガル、英国、ドイツ、スウェーデン、ポーランドの35か所のセンターで実施された実際的な観察研究 (N=4,962)



6か月の使用後、抗CGRP抗体はHFEMおよびCM患者に有効で良好な耐性を示し、奏率は臨床試験で確認されたものと同等でした



抗CGRP抗体の中止と再開²



RE-DO：イタリアの10か所の頭痛センターでの長期的、実際的な、多施設、将来的な観察コホート研究 (N=226)



抗CGRP抗体は、1年間の使用後に治療を一時中断および再開した場合でも、使用1年目と2年目を通して効果が持続します



抗CGRP抗体間の切り替え^{3,4}



英国とイタリアの2つの大規模な第3次頭痛照会センターから得られたデータの長期的かつ実際的な予測分析 (N=39)³



エレヌマブの効果が不十分で、治療抵抗性のCM患者の約3分の1が、フレマネズマブに切り替えてから3~6か月後に、片頭痛の負担が有意かつ持続的に改善されました³



英国の第3次頭痛センターにおける実際の症例を対象としたレトロスペクティブ症例検討研究 (N=54)⁴



1番目の抗CGRP抗体から2番目の抗CGRP抗体[†]に切り替えた患者の12週間の治療後の全体的な奏率は58%；2番目の抗CGRP抗体から3番目の抗CGRP抗体に切り替えた後に有意な改善は見られませんでした⁴

実際のデータは、治療が難しい患者を含め、抗CGRP抗体の持続的な効能と忍容性を裏付け、抗CGRP抗体間の切り替えが一部の患者にとって実行可能な治療オプションになりうることを示しています

*イタリア医薬品庁は、1年間の連続治療後に1か月以上の休薬を義務付けている；[†]93%が最初の抗CGRP抗体治療としてエレヌマブを使用。

CGRP, カルシトニン遺伝子関連ペプチド；CM, 慢性片頭痛；HFEM, 高頻度の発作性片頭痛；RE-DO, モノクローナル抗体の抗CGRP経路による2年目の片頭痛患者の再治療。

1. Caronna E, et al. 発表：IHC2023、韓国、ソウル。2023年9月14~17日。Abstr IHC23-LBAPO-023；2. Vernieri F, et al. *J Neurol.* 2023; doi:10.1007/s00415-023-11872-2. 印刷物に先行するオンライン公開；3. Lambru G, et al. *神経治療学.* 2023; 20:1284-93; 4. Lowe M, et al. 発表：IHC2023、韓国、ソウル。2023年9月14~17日。Abstr IHC23-LBAPO-024.